

■研究指導と修士論文の作成プロセス

（基幹理工学研究科）

<1年次>

当該分野について広く先行研究を調べ、基礎知識を習得し見識を深めるよう指導し、自身の研究についての計画を、研究計画書にまとめるよう指導する。

<2年次>

当該分野における理論・実験などを用い、諸課題への理解を深め、解決方法の考案を行えるように指導する。これまでの研究成果を修士論文として取りまとめるよう指導する。

（創造理工学研究科）

<1年次>

当該分野について広く先行研究を調べ、基礎知識を習得し見識を深めるよう指導し、自身の研究についての計画を、研究計画書にまとめるよう指導する。

<2年次>

当該分野における理論・実験などを用い、諸課題への理解を深め、解決方法の考案を行えるように指導する。これまでの研究成果を修士論文として取りまとめるよう指導する。

（先進理工学研究科）

<1年次>

当該分野について広く先行研究を調べ、基礎知識を習得し見識を深めるよう指導し、自身の研究についての計画を、研究計画書にまとめるよう指導する。

<2年次>

当該分野における理論・実験などを用い、諸課題への理解を深め、解決方法の考案を行えるように指導する。これまでの研究成果を修士論文として取りまとめるよう指導する。

（環境・エネルギー研究科）

修士論文の作成に向けての研究指導は、履修の「研究」の指導教員個々の指導・助言と本研究科教員による講義や共同指導によって行われる。概要は以下の通りである。

1. 1年次においては、随時、研究テーマの選択・設定や内容等について履修の「研究」の指導教員（研究対象分野によっては主担当の他に副担当が選任されることがある）の助言・指導を受ける。
2. また、「導入学習」においても『研究論文の書き方とプレゼンテーション』等の特別講義や演習において「修士論文審査基準」の達成に関わる指導を受ける。
3. 加えて「環境・エネルギー学演習A・B」でも、本研究科教員から「修士論文審査

基準」に基づく指導を受ける。

4. 上記の科目での提出レポートは、WasedaMoodle 上で『類似度判定』のチェックを受ける。
5. 1 年次中には、指導教員あるいは修士論文の研究指導が予定される教員との連名で、適切な学会に講演あるいは論文等を発表・公表することが、修論文着手条件として求められる（当該年度に翌年度の学会で発表予定等が確定している場合は、上記と同様と見なされる）。
6. 1 年次 3 月（9 月入学者は 8 月）の指定期日までに、指導教員の指導・助言に基づき論文題目・内容を決定し、日本語または英語で作成した修士論文計画書を指導教員の承認を得て本研究科事務所に提出する。
7. 2 年次には、「修士論文」と「環境・エネルギー学特別演習 A・B」を履修し、本研究科教員の共同指導による修士論文作成に当たっての指導・助言を受ける。
8. 2 年次中には 1 年次と同様に、随時、履修の「研究」の指導教員個々の指導・助言を受け、研究の遂行と論文の作成に取り組む。

Master's Research Guidance

Graduate School of Fundamental

Graduate School of Creative

Graduate School of Advanced Science and Engineering

(First year)

Students will be instructed to acquire basic knowledge and deepen their insight by studying a wide range of previous research in the field, and to summarize their own research plan.

(Second year)

Students will be instructed to deepen their understanding of various issues and devise solutions using theories and experiments in the field. Students are instructed to compile the results of their research into a master's thesis